

災害時に効果的な連携を図るため、「まずお互いを“知る”ことからはじめよう」を合言葉に、府社協、大阪府社協、堺市社協、大阪ボランティア協会の4団体が呼びかけを行い、今年度から「おおさか災害支援ネットワーク」を開催しています(第2回以降は4団体が世話役団体となり、その後、大阪府生活協同組合連合会と大阪市淀川区社協が世話役団体に加わりました)。



淀川区社協から提供された資料をもとに議論が白熱

的に広がっており、大規模災害時を想定したネットワークが各地で生まれています。これまで大阪では十分とは言えない状況でした。

そこで、災害支援に取り組む諸団体に参加を呼びかけ、大阪が被災した際の支援活動をテーマに学びと情報交換の場を中心とした「おおさか災害支援ネットワーク」を立ちあげました。

## キーワードは「相互理解」

第1回は、7月9日に大阪社会福祉指導センターで開催し、市町村社協や区社協、日本赤十字社、生活協同組合、共同募金会、青年会議所、NPO、中間支援組織等、さらに、滋賀や三重、和歌山等の他府県から計33団体56人が参加しました。

当日は、「災害時の支援活動や

## 顔の見える関係づくりを目指して

# 「おおさか災害支援ネットワーク」スタート!

### 第1回おおさか災害支援ネットワークで出された意見

.....(抜粋)

- Facebook等、インターネットでのつながりを作る
- 定期的に会合し、各機関の災害についての取り組みを共有する
- 可視化できる情報物を作成する
- 顔の見える関係づくり
- 相互理解を図る
- 異分野異業種間でそれぞれの強み・弱みを共有する
- 持続可能なネットワークに
- 平時からのつながり
- 「個人同士」のつながりではなく、「組織」としてつながる
- 災害を想定した合同訓練等のイベントを実施

てワールドカフェ<sup>®</sup>を行ったなかで、2つのテーマに共通するキーワードとして、「相互理解」や「つながる」が示されました(右記に掲載)。

第2回は、10月8日に大阪赤十字会館で開催しました。各回、災害支援にかかる場所の視察も兼ねる目的から、今回は日赤大阪府支部に会場の協力を得て実施し、前回を上回る計41団体67人が参加しました。

また、この日は基調講演として、日赤青少年・ボランティア課から「日本赤十字社の組織と災害時の取り組み」を、大阪府



第2回の会場の様子

危機管理室から「南海トラフ巨大地震についてー被害想定と対策ー」について、それぞれ報告いただきました。またグループ討議では、南海トラフ巨大地震による被災地として淀川区をモデルに、「どのような支援が必要か」や「どのような取り組み・連携・コーディネートが可能か」について、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等のテーマ別に意見交換を行いました。参加者からは、「色々な関係者と意見を交わすことができて有意義

## ゆるやかにつながる

世話役団体の一つで今年度事務局を担当している大阪ボランティア協会の永井氏は、「いつ何が起きるかかわからないので、時々顔を合わせてゆるやかにつながり、しなやかに強い関係を築きたい」とネットワークへの抱負を語っています。

次年度以降も、引き続きこのような場を設け、新たな参加者を募りながらネットワークの充実を図り、災害への備えを進めていきます。

(なお、本事業は2014年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度で実施しています)

※ワールド・カフェとは  
リラックした雰囲気の中、少人数に分けたテーブルで自由な対話を行い、ときどき他のテーブルのメンバーとシャッフルをしながら、参加する全員の意見や知識を集め、共有する討議手法



## 「いつも」が「いざ」に活きるまちづくりを目指して

岸和田市社協では、昨年度から災害ボランティアセンター（以下災害VC）の体制整備と市民への啓発を目的に、「きしわだ災害ボランティアネットワーク会議」を立ちあげています。大きな特徴は、ボランティア・地区福祉委員会・福祉施設・NPO・青年会議所・生協・行政等の多様な主体が積極的に参画していること。

この間、「岸和田らしさ」を意識した災害VC設置・運営の手引きづくりに向けた協議を重ね、昨年11月、第1版が完成しました。

「情報の集約と発信やセクション間の連携、暮らし全体を支える視点、閉所後の支え合いの重要性、平時からのコミュニケーションと地域づくり」などメンバーが大事にしたいと掲げたポイントが反映されており、作って終わりではなく、活きる手引きとなっています。

また、今年度は、ネットワーク会議のメンバーで滋賀県高島市を訪問し、災害時はもちろん平時から地域の防災力向上を目指したさまざまな取り組みを行

う高島市災害ボランティア活動連絡協議会と意見交流を実施。

さらに、昨年末には24年度から取り組んでいる災害時市民助けあい講座の一環として、災害VC設置・運営訓練を行い、メンバーそれぞれが受付やマッチング、救護衛生、資機材班等のリーダーを担当。加えてFacebookやコミュニティFMによるリアルタイムでの情報発信を取り入れたことで、市民にもわかりやすく、災害時の社協と地域の役割を伝える機会となりました。

今後も、平時からの地域づくりの視点を大切に、岸和田らしい日常のつながりや資源を活かした、取り組みの充実が期待されます。



地域力こそ防災力。住民目線での活発な意見交流が行われました。

## 考えよう！ 防災とボランティア

## 災ボラ事前登録を1月より開始

泉佐野市社協では、災害発生時に復興支援活動に協力していただける災害ボランティアの事前登録事業を開始し、1月31日に研修会を開催しました。

これは、10月13日台風19号の影響で、市内でも100件以上の床下(床上)浸水被害が発生したことによる端を発します。被災の翌日には地域住民によって、浸水被害にあった高齢者宅の家具や畳の運び出し等のボランティア活動が行わ

れました。また、府社協職員も現地に入り、ニーズ確認を行いました。この時の活動を通し、近年のような自然災害が頻発する状況において、あらためて地



域における助け合い、平時からの備えが必要だと痛感しました。そのため、研修会では、「災害ボランティアの役割」や「事前登録事業」について講義と説明を行い、参加者に対して積極的な参画を呼びかけました。なお、事前登録は随時受付しています。

また、泉佐野市社協では「社協災害救援マニュアル」の策定や、市民が行う「災害時図上訓練」の実施支援等を行っており、より一層、安全・安心なまちづくりを推進していきます。

※図上訓練とは  
地図を用いて災害の発生を想定し、防災対策を検討する訓練。

## 大阪府・三島地域4市1町社協

## 災害への備え・連携強化を目指して合同防災訓練を実施

10月4日、大阪府日本万国博覧会記念公園で、北摂ブロックの5社協(吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町)と府社協が協力し、災害ボランティア

センターの設置・運営訓練と、DVD・パネル展示を行いました。

当日は、大学生や吹田市ボランティア連絡会がボランティア

「6社協で訓練を実施したこと、地元だけではなく、日頃から近隣の社協で連携することも大切だと改めて感じました」と話しました。

役として、実際に受付やマッチ



社協職員による運営のもと、大学生がボランティア申込みを体験